

世界初の実用無線電話(TYK無線電話機)運用開始100周年記念資料展において、 アマチュア無線記念局8N100ICTを公開運用

1914年に世界で初めて無線電話が我が国で実用化されてちょうど100年になることを記念して、2014年12月20、21両日に三重県鳥羽市において開催された資料展において、アンリツ株式会社および独立行政法人情報通信研究機構(NICT)の社員有志らが、アマチュア無線記念局8N100ICTを公開運用し、100年前の先人達の偉業をアピールしました。

2014年は、世界で初めて無線電話が我が国で実用化されて、ちょうど100年になります。すなわち1914年(大正3年)12月16日に、三重県の鳥羽・答志島・神島間にTYK無線電話機(以下「TYK機」)が当時の逓信省により設置され、離島間の連絡や名古屋港・四日市港を航行する船舶の情報交換などの公衆通信用として実用化されました。

それを記念して、TYK機が最初に導入されたお膝元の鳥羽市立図書館(三重県鳥羽市大明東町1-6)において、2014年12月20、21両日に、TYK機に関する資料展が開催されました。同資料展は、NTTおよびNTTドコモの無線関係OB・現役を中心としたメンバーで東海地域における無線史の発掘・資料収集等を行っている「東海無線会」の分科会「無線史研究会」が主催したもので、TYK機を実用化した安中電機製作所の後身企業であるアンリツ株式会社から、TYK機のレプリカが貸し出されて展示されたほか、TYK機に関する貴重な資料が陳列されました。そして同資料展の会場に隣接する別室において、アンリツおよび独立行政法人情報通信研究機構(NICT)の社員有志らが、アマチュア無線記念局8N100ICTを公開運用し、最新の無線技術を来場者に紹介したほか、全国のアマチュア無線家に、無線交信を通じて、無線電話実用化100年をアピールしました。

●TYK無線電話機について

TYK無線電話機は、逓信省電気試験所(独立行政法人産業技術総合研究所、NTTグループR&D部署、NICT等の共通の前身)の鳥潟右一、横山英太郎、北村政次郎らによって開発された、真空管を使わない独特の無線電話方式で、3人のイニシャルから命名されています。安中電機製作所(現・アンリツ株式会社)が実用化を担当し、十数台が製作されました。TYK機は未来技術遺産(第3号)に認定され、郵政博物館資料センター(千葉県市川市香取2丁目1-16)に2台が現存しています。

●アマチュア無線記念局8N100ICTについて

逓信省電気試験所によるTYK機開発100周年を記念するアマチュア無線局8J100TYKを2011年から2012年にかけて開局・運用したアンリツおよびNICTの社員有志を中心とする実行委員会は、平磯無線(逓信省電気試験所平磯出張所、現NICT平磯太陽観測施設)の開設100周年などを記念して、新たな記念局8N100ICTを、2014年12月1日に開局しました。平磯無線は、TYK機開発者の鳥潟右一が開設を立案・主導し、北村政次郎が初代所長を務めた、我が国最初の無線通信研究専門拠点であり、TYK機に真空管化、同時送受話化、有・無線接続などの改良を加えるための研究開発を行い、無線電話の実用化に多大な貢献をしました。

●資料展における8N100ICTの公開運用について

記念局実行委員会は、TYK機資料展会場に隣接する別室を運用室として無線機および関連資料を並べ、資料展の

開催時間に合わせて 7~430MHz の各周波数帯で公開運用しました。運用室には、日本アマチュア無線連盟(JARL)の三重県支部長を始め、記念局運用の予告を聞いて鈴鹿市からはるばる 2 時間以上かけて来訪して運用参加を申し出たアマチュア無線家など、中京地域の熱心な無線愛好家が多数訪れました。運用室には、1926 年(大正 15 年)から 1928 年(昭和 3 年)にかけて平磯無線に設置された短波無線実験局 JHBB 宛てに、世界各国のアマチュア無線家から届いた当時の貴重な交信証(QSL カード)や受信レポートも展示され、100 年前の平磯無線および無線電話実用化の偉業に来場者は驚きの声を上げていました。



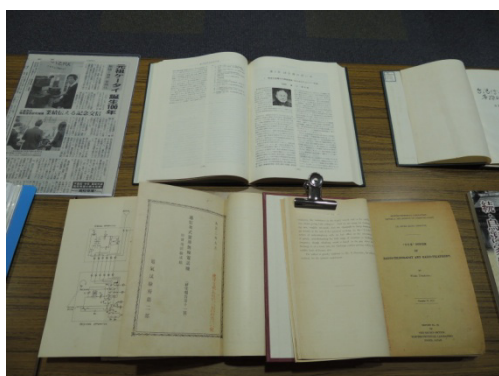
会場の鳥羽市立図書館



資料展の会場



アンリツから貸し出された
TYK 機レプリカ



100 年前の貴重な資料が展示された



館内の別室で行われたアマチュア無線
記念局 8N100ICT の公開運用



図書館の駐車場に仮設した
記念局のアンテナ

(文責: JF3CGN)